

## がんに関するアンケート

東京海上日動あんしん生命保険株式会社では、がんに関するアンケート調査を実施し、調査結果を以下のとおり、とりまとめました。

### 目次

- がんを予防することについての意識
- がん検診の受診について
- 日常生活で気を付けていること
- がん告知について
- がんに罹患した場合の治療の選び方
- がんを経験した際の心境変化
- がんの治療方法と抗がん剤治療

#### <アンケート実施要領>

##### 1. がん未経験者 アンケート調査

- 回答者：がんを経験していない男女(20歳以上～50歳以下)
- サンプル数：1034名
- 調査方法：WEB アンケート調査(株式会社マクロミルの「マクロミルモニタ」を利用)
- 調査実施期間：2015年1月16日～1月17日

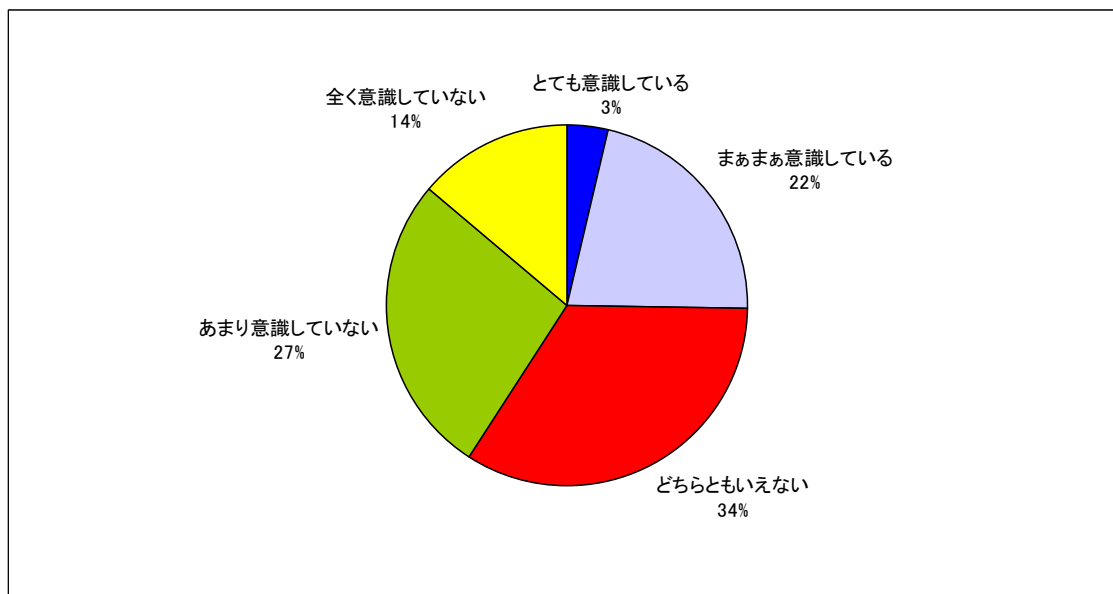
##### 2. がん罹患経験者 アンケート調査

- 回答者：がん(ステージ I 以上)を経験している男女(21歳以上～69歳以下)
- サンプル数：1030名
- 調査方法：WEB アンケート調査(株式会社マクロミルの「マクロミルモニタ」を利用)
- 調査実施期間：2015年1月17日

## 1. がん未経験者 アンケート調査

### ■ がんを予防することについての意識

Q1. がんを予防することについて、意識していますか？



「2人に1人」が罹患するとされるがんについて、予防を意識している方は「4人に1人」にとどまりました。

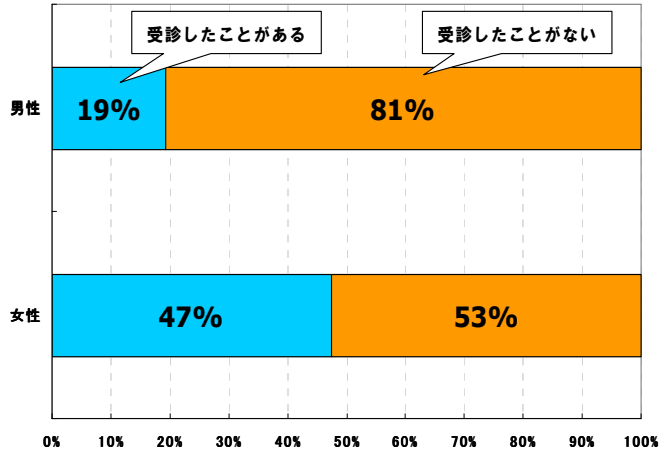
## ■ がん検診の受診について

### Q2. 国や市区町村が実施する「がん検診」を受けたことがありますか？

「男性・女性40歳(※)～50歳」の方にかがいました。

(※)「市区町村が実施するがん検診」の受診対象年齢(女性の「子宮頸がん検診(20歳～)」を除く)

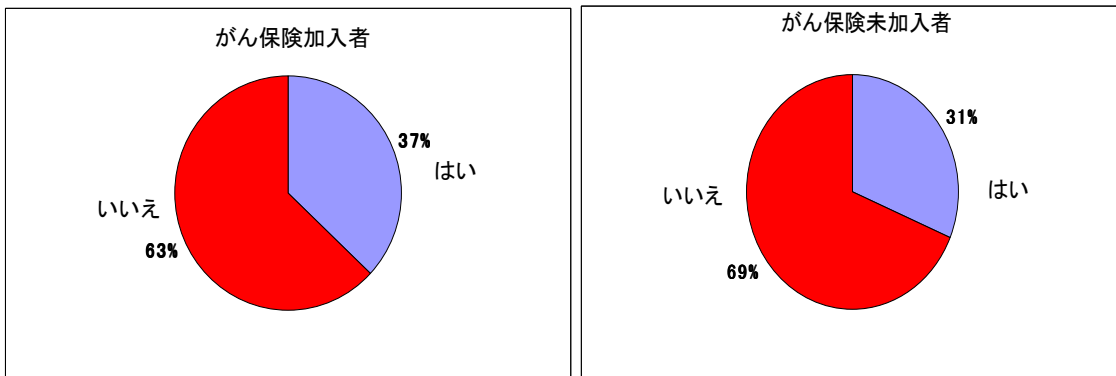
#### (1) 国や市区町村が実施する「がん検診」の受診率



「国や市区町村が実施するがん検診の受診率」は男性19%、女性47%、男女あわせて33%との結果でした。

(2)「がん保険加入者」と「がん保険未加入者」の方に「国や市区町村が実施するがん検診」の受診についてうかがいました。

【がん検診受診率】

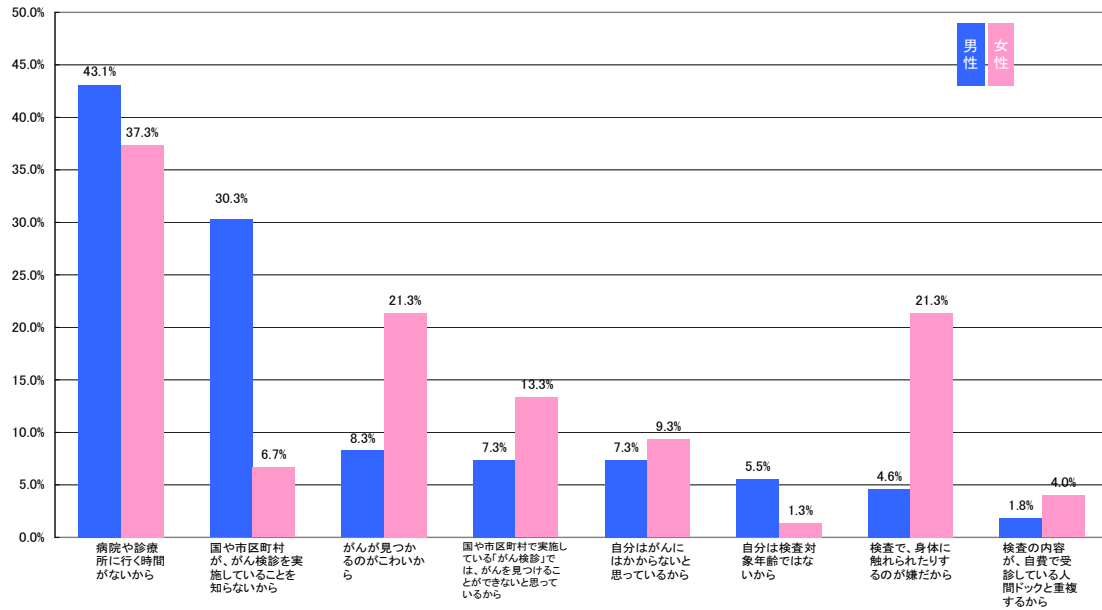


がん検診受診率を「がん保険加入」の有無別に比較したところ、「がん保険加入者」(37%)の方が、「がん保険未加入者」(31%)より、がん検診受診率が高いことがわかりました。

### Q3.検診を受診されていないのはなぜですか？

がん検診を受けたことのない「男性・女性40歳～50歳」の方にはうかがいました。

(複数回答可)

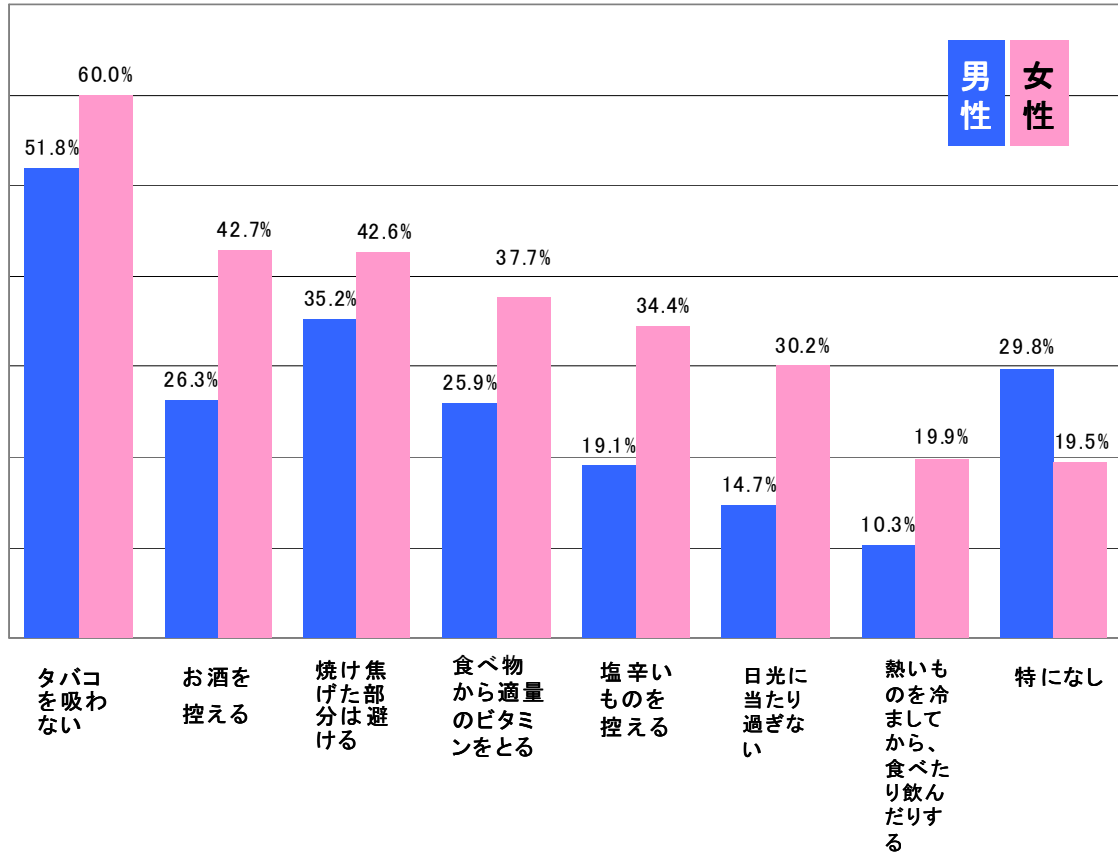


検診を受診していない理由をお聞きしたところ、男女問わず、「受診する時間がない」が35%を超えて最も多いことがわかりました。

その他の理由を男女別に見ると、男性が「国や市区町村ががん検診を実施していることを知らない」(30.3%)が多く、女性は「がんが見つかるのが怖い」(21.3%)が多いことがわかりました。

## ■ 日常生活で気を付けていること

Q4. がん予防のために、日常生活で気を付けていることはありますか？(複数回答可)

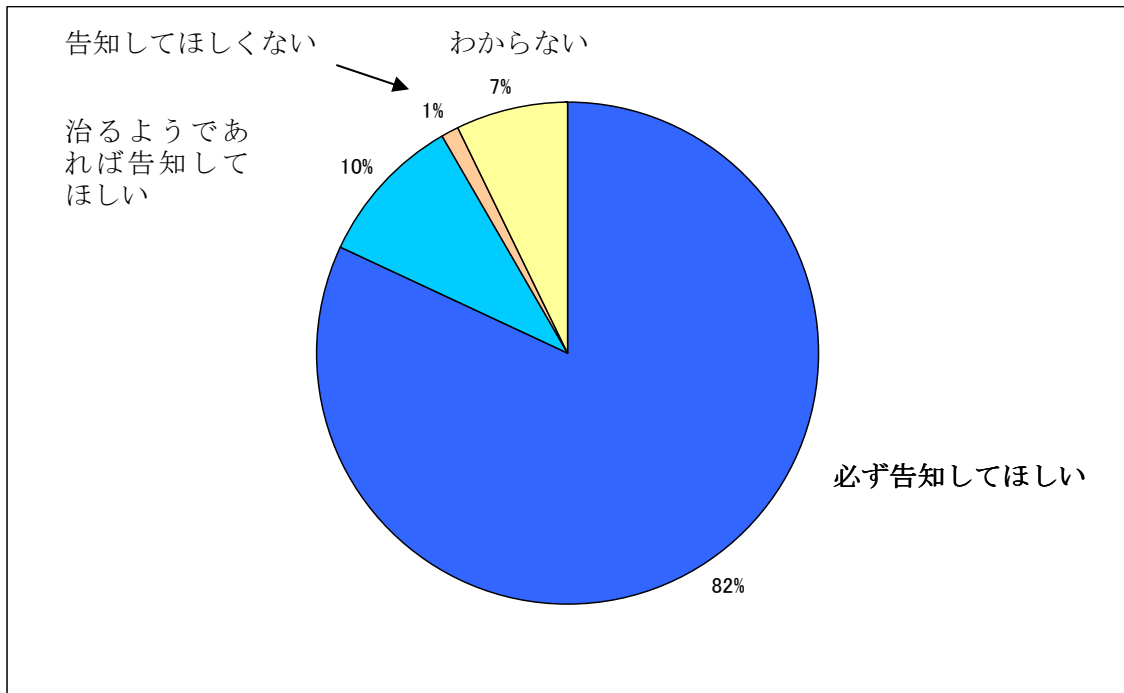


がんについて予防を意識していると回答された方や検診を受けられている方は、必ずしも多くないとの結果でしたが、上記のような日常生活で気を付けていることについては、より多くの方が「タバコを吸わない」「焼け焦げた部分は避ける」「お酒を控える」等を実践されていることが分かりました。

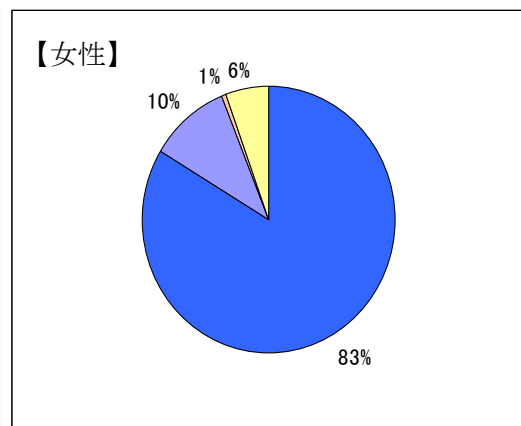
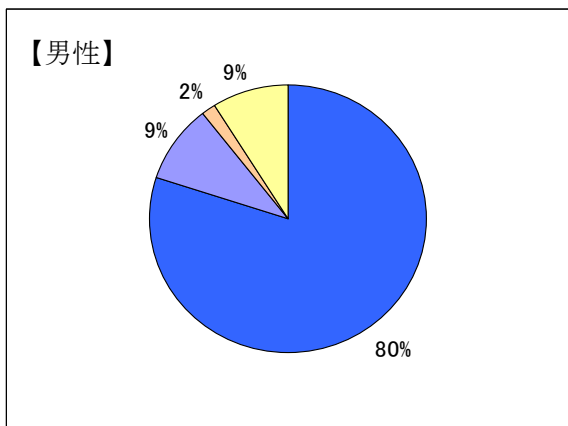
男性と女性を比較してみると、女性が全ての質問項目(除く特になし)で男性よりも多く「気を付けている」と回答しており、日常生活の中で、がん予防のために気を付けていることが多いことが分かります。

■がん告知について

Q5. あなたが、もしがんになった時に、医師よりがんと告知してほしいですか？



ご自身に対する、がん告知については、必ず告知してほしいと考える人が82%おり、がん告知が世間一般に広く定着したことがうかがえます。

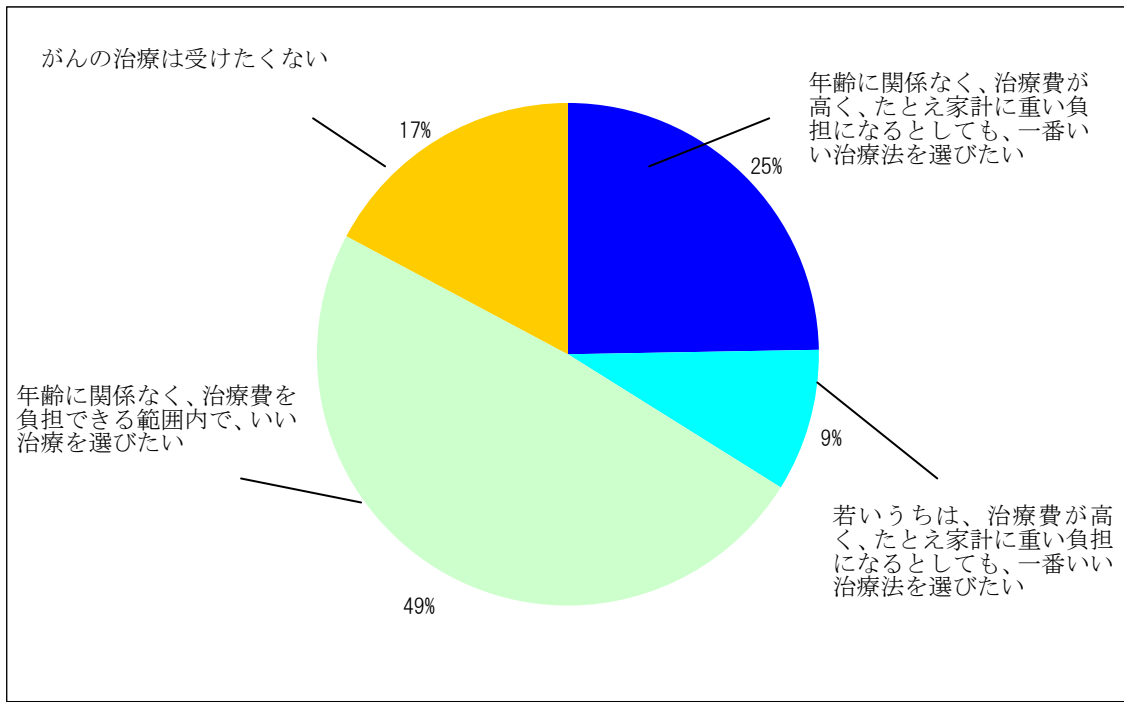


男女別に比較しても、がん告知に関して大きな差はありませんでしたが、女性の方が「必ず告知してほしい」が若干多い(男性80%、女性83%)との結果でした。

## ■ がんに罹患した場合の治療の選び方

### Q6. ご自身や、ご家族ががんになった場合、現在(いま)、治療法はどのように選ばれますか？

#### ①ご自身に対して

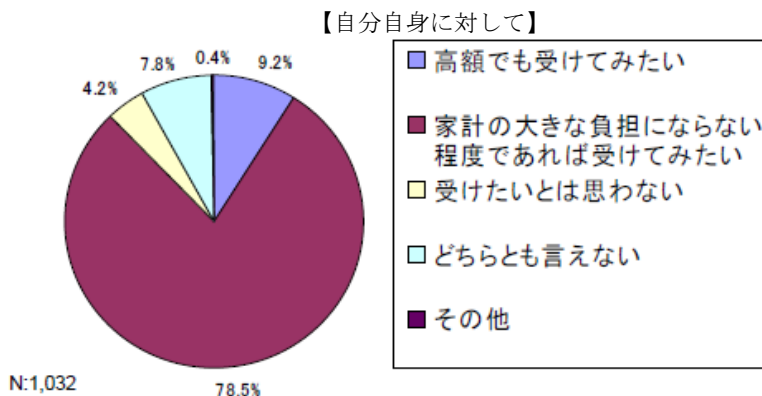


約半数の方が「治療費を負担できる範囲内でいい治療を選びたい」と回答されていますが、25%の方が「年齢に関係なく、治療費が高くても(家計に重い負担になっても)一番いい治療法を選びたい」と回答され、「若いうちは、治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」を加えると、34%の方が、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されました。

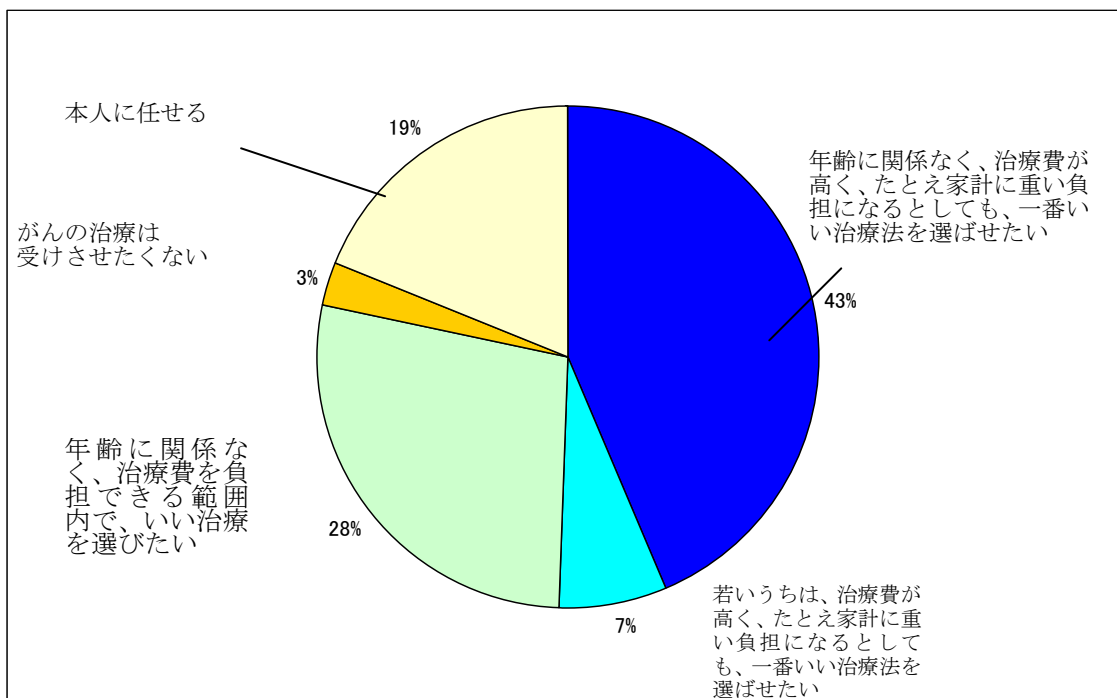
2012年の当社アンケート実施時より「がん治療の重要性」への理解が高まっていることがうかがえます。

【参考】2012年5月実施アンケート

Q 自分が「がん」になったら、有効な治療であれば、高額でもうけてみたいと思いますか。



## ②配偶者に対して



「本人に任せる」と19%の方が回答される一方、43%の方が「年齢に関係なく、治療費が高くても(家計に重い負担になっても)一番いい治療法を選びたい」と回答され、「若いうちは、治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」を加えると、50%の方が、「治療費が高くても一番いい治療法を選びたい」と回答されました。

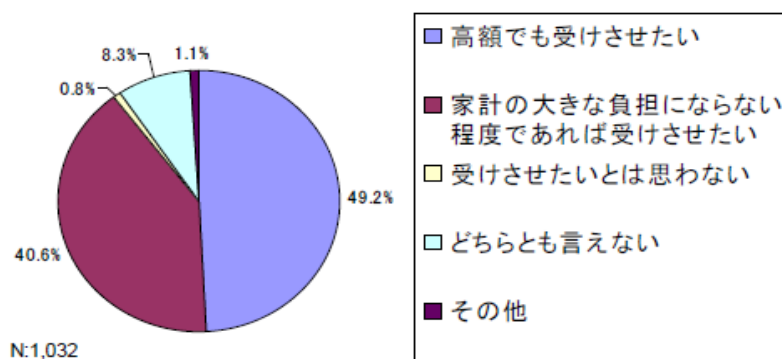
自分自身に対しては、「治療費が高くても一番いい治療を選びたい」と考える方が34%なのに対し、配偶者に対しては、50%の方が「治療費が高くても一番いい治療を選びたい」と回答されており、自分自身より家族に対して、積極的な治療の意識が高いことがうかがえます。

当社は、2012年にも同様の調査を行いました。前回に引き続き、今回も、自分自身より家族に対して、治療費を惜しまないと回答された方が多いとの結果となりました。

【参考】2012年5月実施アンケート

Q 自分の家族が「がん」になったら、有効な治療であれば、高額でも、うけさせたいと思いますか。

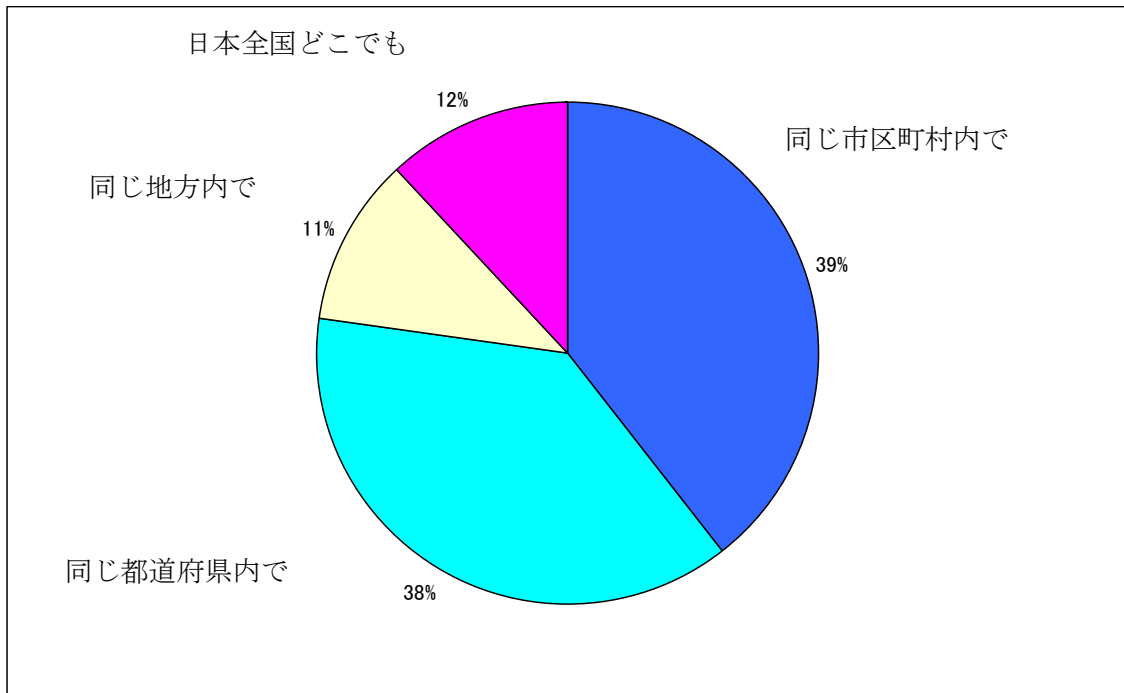
【自分の家族に対して】



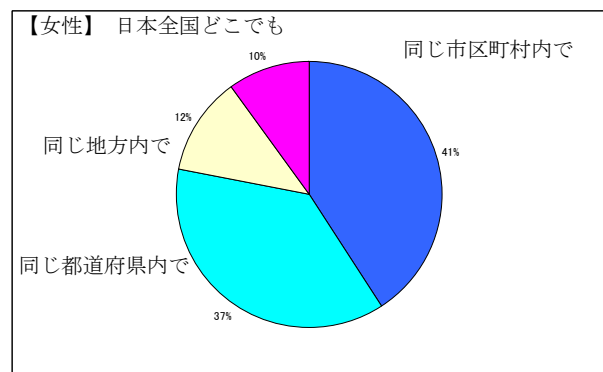
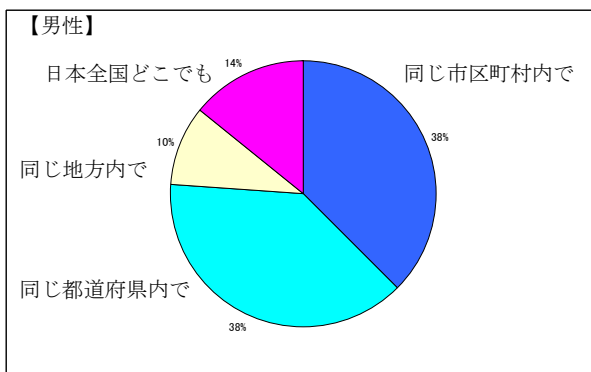


**Q7. (いま)ご自身やご家族ががんになった場合、どの程度までの距離ならば、入院しようと思えますか？**

①ご自身について



70%以上の方が「同じ市区町村で」「同じ都道府県で」と回答される一方で、非常に効果的な治療を行う病院・医師がいると聞いた場合、12%の方が「日本全国どこでも」行くと回答されています。



男女別で比較すると、「同じ市区町村で」「同じ都道府県で」と回答された方の割合はほぼ同じでした。男性14%、女性10%が「日本全国どこでも」と回答されており、男性の方が「日本全国どこでも行く」方が多いとの結果でした。

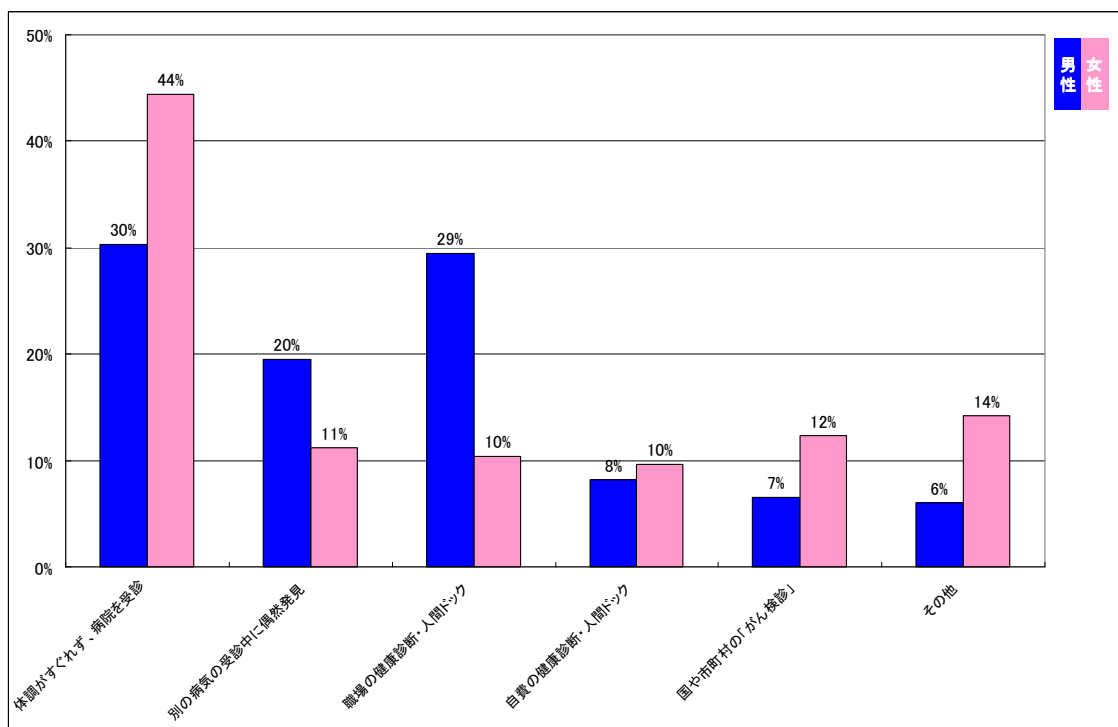
## 2. がん経験者 アンケート調査

### ■がんを経験した際の心境変化

今回の調査では、がんを経験されたことのある方々にもうかがいました。

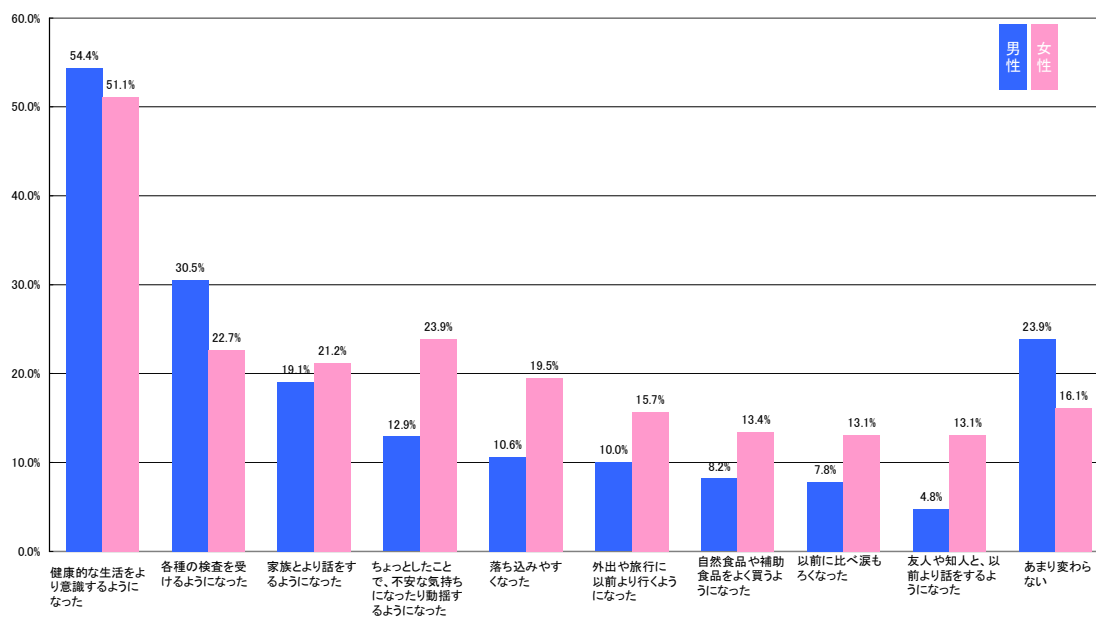
がんを発見したきっかけ、行動や心境の変化や、現在の悩みや不安についてお聞きしました。

#### Q1. 最初に診断されたがんは、どのようなことをきっかけにして発見されましたか。



女性は「体調がすぐれず、病院を受診」(44%)が、男性は「職場の健康診断・人間ドック」「自費の健康診断・人間ドック」「国や市町村の『がん検診』」での発見(44%)が一番多いことがわかりました。

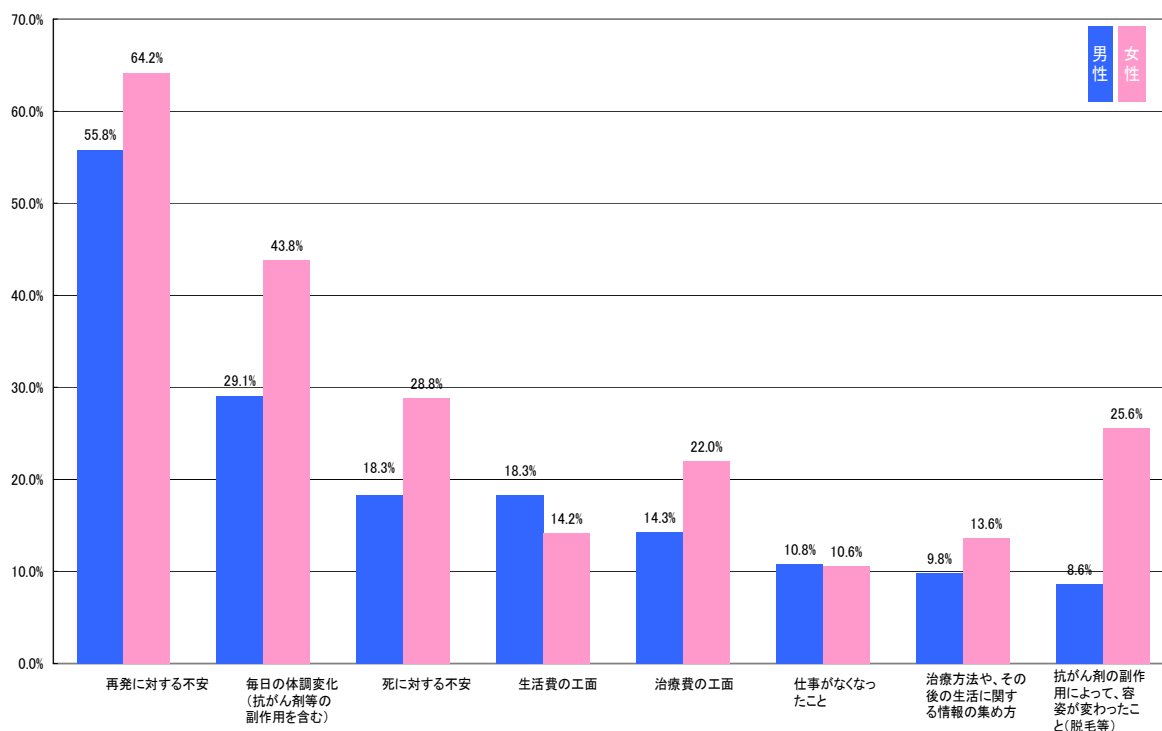
**Q2. あなたは、最初にがんと診断された後、どのような変化がありましたか(複数回答可)**



男女問わず、半数以上の方は「健康的な生活をより意識するようになった」と回答されています。また、「各種の検査を受けるようになった」「家族とより話すようになった」が上位を占めました。

特に女性の方に「外出や旅行に以前より以前より行くようになった」や「友人や知人と、以前より話すようになった」等、前向きな変化を回答された方が多くおられました。

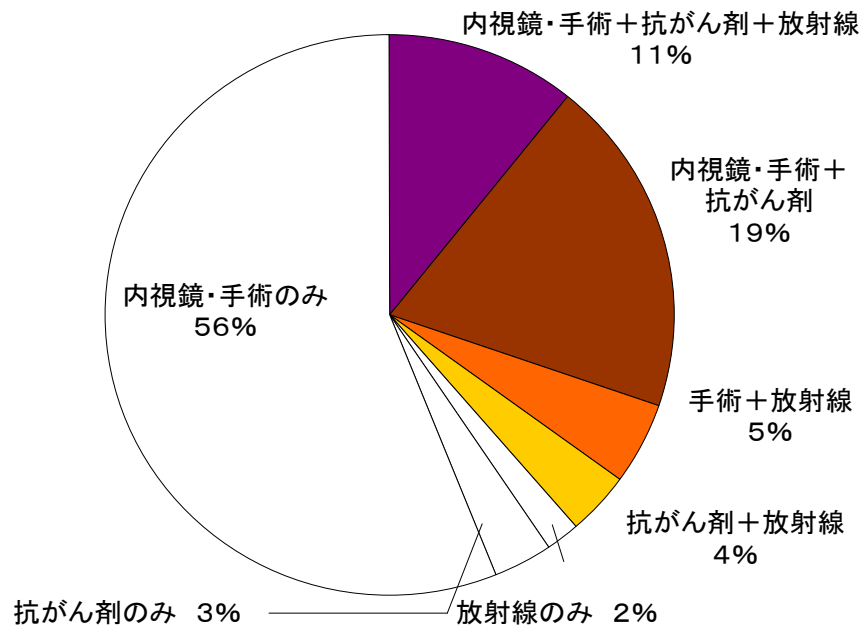
**Q3. がんになって、苦労した点、悩んだ点はどのようなことですか(複数回答可)**



「再発に対する不安」や「毎日の体調変化(抗がん剤等の副作用を含む)」が上位を占めました。また、「仕事がなくなったこと」を1割の方が挙げられています。治療費や生活費の工面といった、金銭的な悩みも一定程度あることがうかがえます。

## ■ がんの治療方法と抗がん剤治療

### Q4. 最初に診断された、がんに対して、どのような治療をされましたか？



全体の約4割の方が複数の治療を用いていると回答されました。

また、実施されている治療方法の中で目立つのが、抗がん剤と他の治療の併用ですが、約4割の方が、抗がん剤を使用されている事がわかりました。